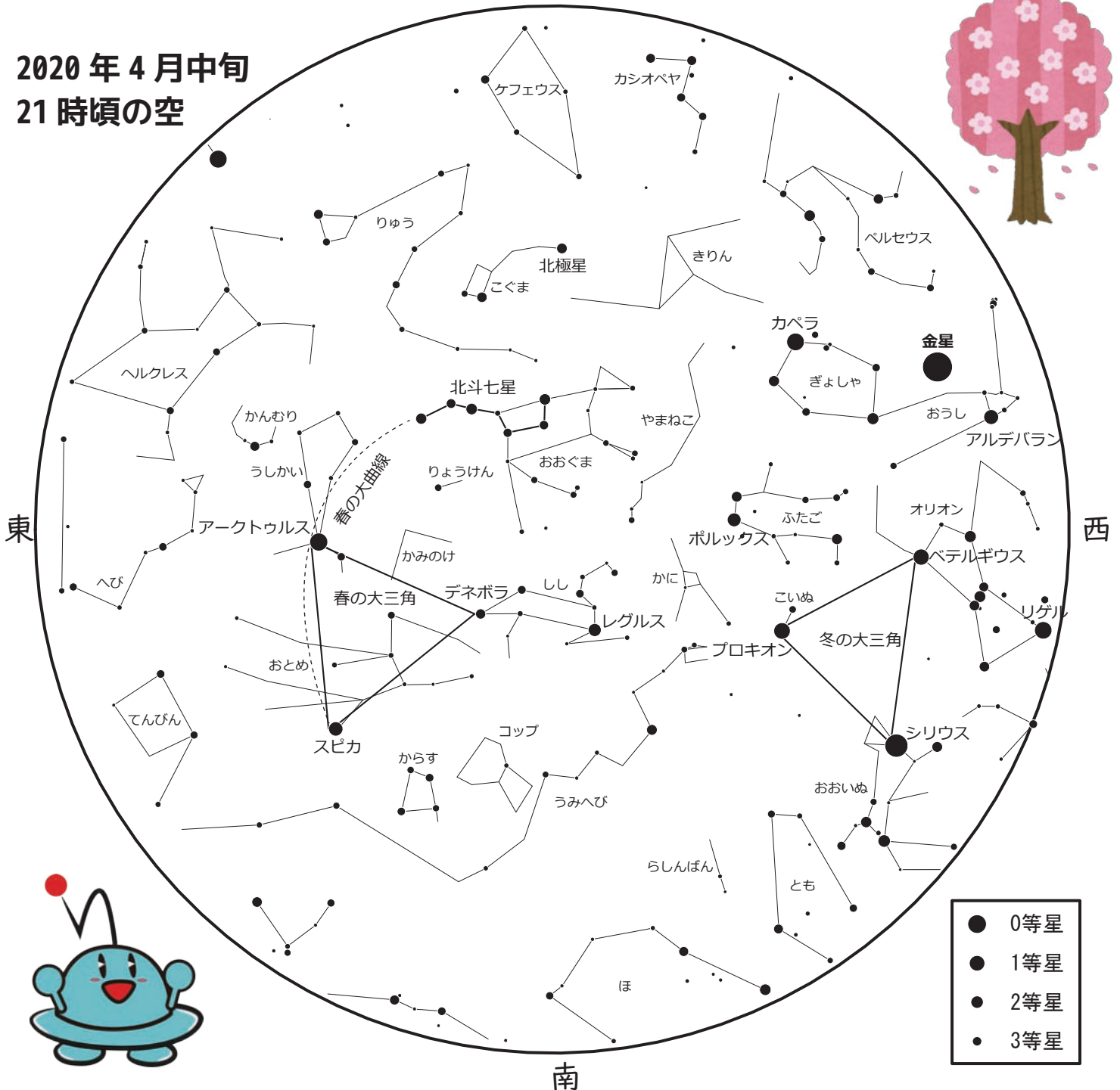


阿南市科学センター

4月の星空案内

北

2020年4月中旬
21時頃の空



ポカポカ陽気の気持ちのいい季節になりました。星空はすっかり春の星座が主役です。北斗七星（おおぐま座）のひしゃくの柄のカーブを伸ばして夜空に描いた大きな曲線を春の大曲線といいます。春の大曲線をたどっていくと、2つの一等星が見つかります。1つ目の一等星はオレンジ色に輝くアークトゥルス（うしかい座）で、春の3つの一等星の中では一番明るい星です。2つ目の一等星は青白く輝くスピカ（おとめ座）です。2つの一等星としし座の二等星デネボラを線で結ぶと春の大三角になります。

西の低空には金星が見えていて、全天で最も明るい一等星のシリウス（おおいぬ座）と比べても非常に明るく輝いています。日没後、西の空に見える金星を宵の明星といい、28日に最大光度（ -4.5 等）となります。

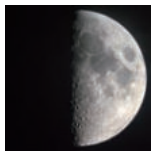
天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

■ 4月の月の満ち欠けと惑星について



上弦
1日



満月
8日



下弦
15日



新月
23日

4月の天体観望会で月が見える日時は？



4/ 4(土) ……全ての回で観察可能

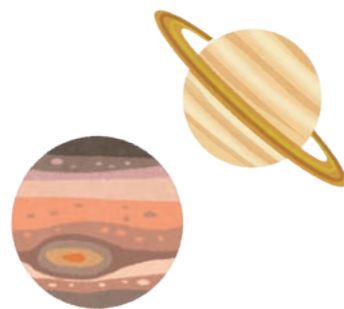
水星：見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。【約0等】

金星：日没後に西の空で見える。観察好機。28日に最大光度。【約-4.5等】

火星：夜明け前、南東の空で見える。【約1等】

木星：夜明け前、南東の低空で見える。【約-2等】

土星：夜明け前、南東の低空で見える。【約0.5等】



■ 113 cm望遠鏡で撮影した春の銀河

【渦巻銀河 M101（回転花火銀河）】

M101は、おおぐま座にある渦巻銀河で、約1900万光年の彼方にあります。見かけの大きさは、ほぼ満月と同じくらい大きな銀河です。地球からは真上から見る銀河（フェイスオン銀河）のため、写真に撮ると美しい渦巻腕が浮かび上がってきます。その様子から、回転花火銀河の愛称で親しまれている有名な銀河です。

天の川銀河と同じく中心核（バルジ）に年老いた星が多く、円盤内では新しい星が多く生まれている特徴があります。また、円盤内の星やガスは、M101の中心の周りを回転しています。私たちがいる太陽系も天の川銀河中心の周りを回転しており、約2億年かけて1周します。



M101 回転花火銀河
(阿南市科学センター撮影)

【不規則銀河 M82（葉巻銀河）】

おおぐま座にあるM82は有名な不規則銀河で、別名「葉巻銀河」とも呼ばれています。M82は北極星に比較的近いため地平線の下に沈むことがなく、一年中観察できる「周極星」です。地球から約1200万光年の彼方にあります。

M82には渦巻銀河や棒渦巻銀河に見られる中心核（バルジ）や渦巻腕がなく、特異な形をしています。また、M82はスターバースト銀河としても知られており、活発な星生成が起っています。

過去にM82は近くの渦巻銀河M81と衝突しました。それが原因でM82は現在のような特異な形になり、活発な星生成が起こるようになったと考えられています。



M82 葉巻銀河
(阿南市科学センター撮影)